

NISHINOMIYA EBISU

令和元年 夏号

西宮 えびす

奉祝
令和元年

海上渡御祭
再興二〇年



特別インタビュー

はまむら

浜村 淳さん

じゅん

毎年、十日えびすに誕生日を
お迎えになる浜村さん
テレビ番組の撮影や
日本酒のイベントで
何度も当社にお越しになり
えびすさまの衣装を
着けた経験もお持ちです
今回は境内の
百太夫神社の講演会に際して、
お話を伺いました



Hamamura Jun Interview

百太夫神社の講演会を お勤め頂いての感想は？

百太夫さまといえば芸能の神様、技能
上達を祈る神様ですから、私どもの仕
事とも大変ご縁が深いです。だから（講
演できて）こちらの方が有り難かったで
すね。こんな近しい関係になるとは思わ
なかったです。今までは参拝するだけで
したが、一層親しみを感じました。

まして百太夫さんが演じた「えびす
まい」が文楽人形のルーツになっている
と知ると二層その思いが深くなります。
（講演できて）良かったです。

文楽への思いは…

三人で一体の人形を遣うのは、世界で
日本の文楽しか無いんです。それもちゃ
んとストーリーがありましてね。そうい
うのは誇るべき芸術だと思えます。文楽
人形の存在は誰でも知っています。（し
かし）百太夫さんの存在を知っている方
は少ないと思います。ルーツにこういう
人がありますよ、こういう芸があります
よという事を、もつともっと広く皆知
ってもらいたいですね。



西宮神社や

えびすさまについては…

もう自分が一月十日の生まれですからね、勝手に守り神と考えているわけですよ。

そして阪神高速を走りますと西宮神社の一部が見えます。そうすると聖域に近付いたと言う感じで親しみと身の引き締まる様な厳肅な思いがします。(通るたびに)車の中から拜んでいます。

皆さんに伝えたいことは…

機械が発達して携帯電話で何でも分かります、何でも出来る。その内に携帯電話でヒゲが剃れるとか、水が出てきてシャワーの代わりになるかも知れない。その反面、人間の心が本来持っている「情」人情とも愛情とも言うものが薄れてきていると思うんです。これをもう一度むかしの日本民族が持っていた美しい点、美点として取り戻したいですね。



我々がやっている仕事は語り部なんです。皆さんに例えば、えびすさんの話、それから西宮神社の成り立ちですね、面白い話は幾つもあります。西宮という地名の謂れ、由緒みたいなことも、30分ぐらの単位で、大勢の方に知ってほしいと思います。和田岬の沖の海の底でえびすさんが漁師の網にかかった。それをどういう風にして全国に広めていったのか。百太夫という人がえびす舞を演じて、えびすさまの御神徳を広めていったとか、そういう話。ぶつ続けに語れば5時間ぐらい語れるでしょう。それでは聴いてる方がシンドイので30分ずつ位に区切って、語り広めていきたいと思います。面白い話ですからねえ。昔から伝わっている話ですが、えびすさまが日本人の心にこういふ風に住み着いていらしやる。特に江戸時代から商いの神様、福徳の神様として有名になっていった。そのあたりの由来：きつかけも語り部としては皆さんに大いに知ってもらいたいと思います。

福の神としてのお話の中で 話題・題材はありますか？

これは西宮神社の成り立ちに大いにハイレイトになる所が沢山ありますね。えびすさんは「西へ行け」と「西へ行つて我を祀れ」とおっしゃった。それだけで面白いネタじゃないですか。だから西宮と言うようになったとかね。そういう所から興味を引くような話を繋いでいきたい。と考えております。今は考えているだけですが語り部としてはやっていきたいと思えます。

浜村さんが思われる福の イメージや理想はありますか？

それはヤッパリ健康第一やと思えます。



すね。儲けも大事ですけどね。まあ何とか生活できる程度の儲けが有れば、それで満足してもらいたい。

「焚くほどは風がもて来る落ち葉かな」という俳句が有りますが、「吾足を知る」ですね。(だから儲けよりも)健康!!これは人間の力ではどうにもならないでしょう。本当の福とはこれだと思っんです。

昔から「えびすだいいこく」といいますが、なぜかえびすさんの方が福の神・商いの神になっているんですねえ。陽気でしょう。陰気の反対でしょう。えびすさんのお話って明るいんですねえ。御陽気なので大勢の人に話つてひきつける魅力があると思えます。



**明るいというのが
健康の秘訣なんですな。**

その通りですね。「明るく暮らしましょう」「これ健康の秘訣の一つですね。ウジウジと打ち沈んで暮らすよりは、明るく笑って暮らしましょう。」

**日頃の生活やお仕事で
心掛けて居られることは…**

やっぱり健康でしょうねえ。そして夜更かしはしないようにしています。例えば宴会があっても9時には終わらしてもらうとか、2次会へは行かない(笑)。朝の番組に出るようになってからは、そうしています。テレビの深夜番組をして

いた頃は、遅くに終わってから飲みに行く事がありました。でも健康には良くないですね。今は「明日があるので、明日早いので」と言うのが良いキッカケになつて言い訳になつて(笑)その場を抜けやすいですね。

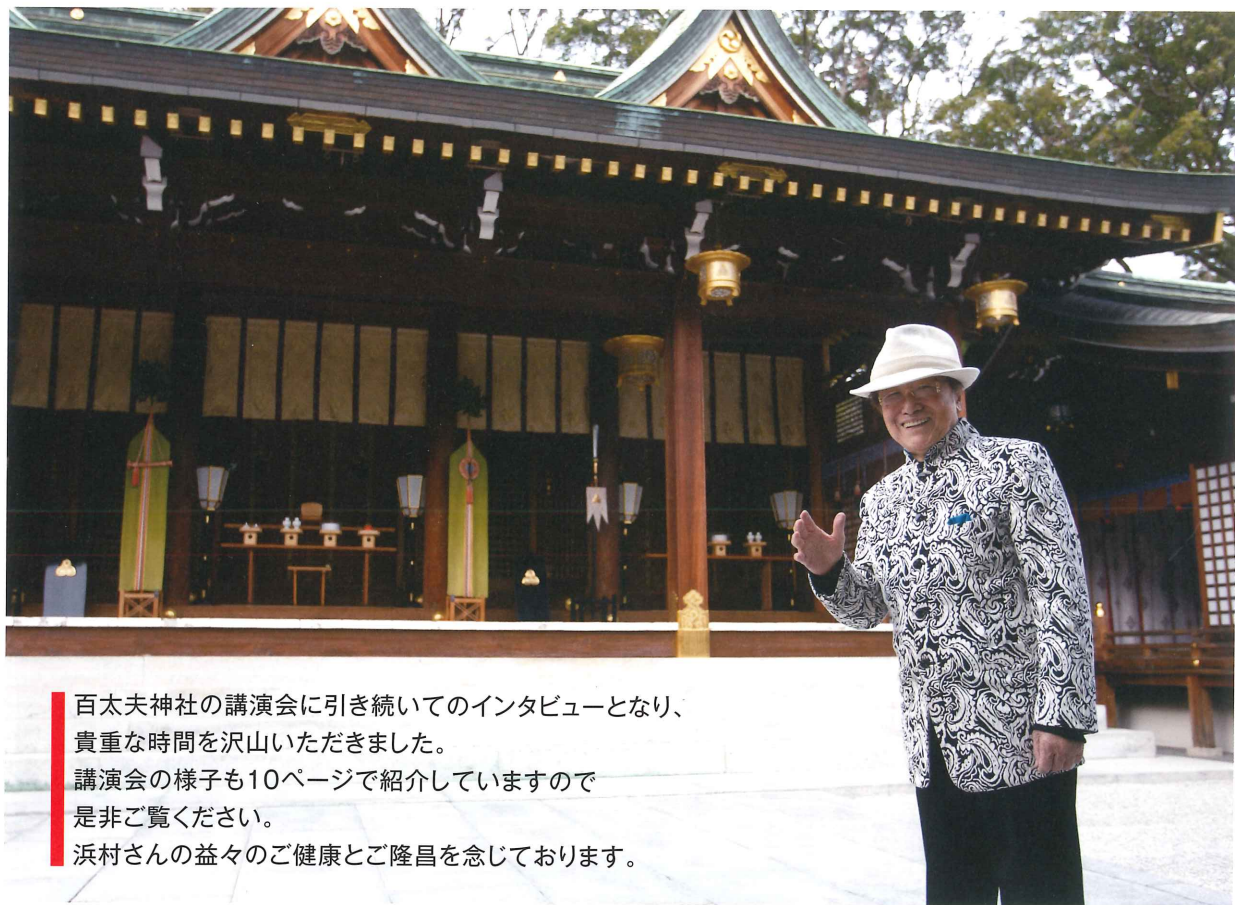
**今年は海上渡御再興
20年にあたり、
全船で産宮まいりを行うなど
盛り上げてまいります。**

商いの神様の面が有名になっていますが、海の神様であり、漁業の神様でもあるという事をあらためて知ってもらいたいですね。だからマグロにお金を貼り付けたりするんですよ。

**御神影札という独特の姿で
全国にえびすさまの信仰が
広がっていますが、
釣竿を持った
御神影だけではなく、
農耕の「田の神様」の御神影も
西宮神社から
広められています。**

東京の浅草神社でも御神影札を出すことになつたそうです。江戸時代以来の信仰を復興されたという事で、この間うちの番組のクイズにも出したんですよ。東京の方では十日えびすではなくて二十日えびすと言つてそうです。

全国に五千以上もあると、その土地その土地で独特の風習が出来ますよねえ。



百太夫神社の講演会に引き続いてのインタビューとなり、貴重な時間を沢山いただきました。講演会の様子も10ページで紹介していますので是非ご覧ください。浜村さんの益々のご健康とご隆昌を念じております。

西宮神社の祭典に関する食べ物

年間の神事や行事に関わる直会や食べ物を御紹介します。

一月



●十日えびす…豆腐の田楽

大祭に際して神社の内外で行われた、居籠りに因んで1月10日の昼頃限定で当神社会館で供されます。

招福大まぐろ、野菜、果物ほか

正月から十日えびすにかけて様々なお供えが奉納されます。

●特別祈禱 福まいり…清白御膳、福寄御椀

1月中旬から2月にかけて「えべっさんの招福厄除祭」の祈禱をお受けになった方に直会として供されます。清白御膳はお米、ダイコン、白みそ等、白い食材だけで作られた清らかな御膳。福寄御椀は焼き餅、蕪、卵など縁起の良い食材を寄せてつくられた福の御椀です。

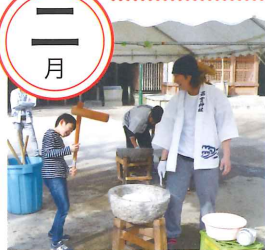


清白御膳



福寄御椀

二月



●節分祭(節分の日)

若戎会の餅つき

氏子青年会若戎会の奉仕により約200kgのモチ米を6000個の丸餅に仕上げます。当日にぜんざいにして振舞われる他、福祉施設に配られます。

六月



ピワを飾り付けた神輿



甘酒の振る舞い



ピワの振る舞い

●おこしやまつり(6/14)

御祭神の御鎮座伝承に基づき、神社東方のおこしや跡地に御神輿が巡幸し、浴衣姿のびわ娘がピワと甘酒を振る舞います。

●夏越大祓式(6/30)

江戸時代の御社用日記に基づきハスの葉に素麺を載せて食した、七夕の節句を再現します。

七月



●旬祭(7/1)

水餅献備

1日の旬祭に長野県からお供えされる水餅は祭典後に調理して参拝者に供されます。

十月



『日本永代蔵』に見えるえびす講床の間にえびす様の掛け軸とお供えがあります。

●西宮名物

えべっさん鯛めし(通年)

淡路屋で製造され新神戸駅、神戸そごう他で販売されています。



●誓文祭(11/20)

年間の御加護に感謝する日。

参拝者には古式神饌を基にした特別料理が供されます。



西宮大神本紀 海上渡御の景観



西宮大神本紀 和田岬御旅所の景観

海上渡御祭 再興二〇年

平安時代には海上・陸上で壮麗・勇壮に行われていたことが公家の日記や国宝「遍聖絵」などから窺い知ることができ、西宮神社の渡御祭は、えびすさまの御神像を鳴尾の漁師が和田岬ですくい上げ、西宮の地にお祀りしたという御鎮座伝説に由来するものです。

神幸の往路は、旗や幕で飾り立てた幾艘もの船が和田岬へ向かい、和田岬の御旅所では花を飾り舞などを奉納した後、馬を連ねて陸路六里約二十四㎞を西宮へ帰還することを「産宮まいり」と称していました。この神事は十六世紀に廃れてしまいましたが、阪神・淡路大震災からの復興を記

海上渡御祭再興20年記念 全行程 22.5km

参加人数 先着150名 予約制
参加費用 4回分 2,000円
講師 田辺 眞人 先生

えびすさまの道 西国街道福めぐり

コース1 4月27日 西宮神社～日宮神社を歩く
コース2 5月25日 三王神社～船等神社を歩く
コース3 6月22日 船等神社～走水神社を歩く
コース4 7月27日 渡川神社～和田神社を歩く

参加募集 申込開始は2月1日(祝)より

主催 / 西宮神社

記念行事のご案内

一、和田岬への神幸

全船団・参列者が和田岬へ向かい、和田神社の境内に御旅所を設け、御旅所祭を斎行すると共に所縁の真光寺へ参拝します。

二、「西宮大神本紀絵巻」の復元

昭和二十年八月の空襲により焼失した、海上渡御や和田岬御旅所での祭典の様子などを伝える絵巻物を、残された写真を基に復元します。

三、「記念講演会」

(令和元年九月一日)

園田学園女子大学名誉教授 田辺眞人先生を講師に迎え、えびすさまが御出現された和田岬についての記念講演会を西宮神社会館で開催します。



園田学園女子大学名誉教授 田辺眞人先生

念して平成十二年九月二十三日に約四百年ぶりに再興され、十年毎にえびすさまの神輿が和田岬へ神幸します。今年はその節目の年に当たり、様々な催しを行います。

陸渡御



八乙女行列



平成21年 真光寺御廟参拝のひとつま



日吉神社



平成 31.4.27 福めぐり

西宮神社海上渡御祭再興 20 年記念

えびすさまの道
西国街道

御朱印福めぐり

西宮神社から和田岬へ

陸渡御

西宮神社 INFORMATION

西国街道御朱印福めぐり
(平成31年4月27日～平成32年3月27日まで)

- 17全での御朱印を集められた方には、西宮神社で記念品を贈呈いたします。(厚着・記念でのいりなのご注意)※贈呈品はなくなり次第で終了となります。

海上渡御祭再興 20 年記念 御朱印帳・特別御朱印
(平成31年4月27日～平成32年3月27日まで)

当社では毎年9月9日2日に御行される海上渡御祭再興20年を記念して、期間限定で、海上渡御祭をモチーフにした御朱印帳、また緑色の袋・福首の柄が入った特別御朱印を社団法人が発売します。

福々しい御朱印帳に入れて 御朱印福めぐり!

縁起や実用性の柄が揃っている緑色の良い御朱印帳をもちまして、17社御朱印取りをして福めぐりにお使いください。

御朱印帳 (お値段1,000円)

※お手持のサイズで、お手持のサイズに合わせた御朱印帳は社団法人にのみ販売しております。

特別御朱印 (お値段300円)

御朱印福袋 (お値段1,000円)

「えびすさまの道 西国街道 福めぐり」西宮神社から和田岬へ

和田岬から西宮への還御は陸路を用いた古儀に倣い、先人が神幸した西国街道を田辺先生引率のもと四回に分けて踏破します。

(申込みは定員に満ちております)

打出天神社



平成 31.4.27 福めぐり

「西国街道御朱印福めぐり」(平成三十一年四月～令和二年三月)

渡御祭をモチーフにした朱印帳を新たに作成し、和田岬までの西国街道沿い社寺の御朱印巡り。全て参拝された方には記念品を贈呈します。

「海上渡御祭再興二十年」

令和元年七月三日から十月三十日まで開催(午前九時〜午後四時)

昭和 29 年 再興された 陸渡御



社務所一階の展示室では、平成十二年に海上渡御祭が四百年ぶりに再興されて二十年となることを記念したパネル展を行います。
 例年の船渡御は西宮近隣を巡航し「かざまつり」を行います。平安以来の古儀に倣った平成二十二年に準じて、全船団が神戸・和田岬まで渡御して「産宮参り」を行い、同所の和神社境内にて御旅所祭を斎行します。
 記念の年の海上渡御や六里(約二十四キロ)離れた和田岬で行われる祭典の様子を写真などで紹介します。



平成 20 年 神幸する御座船



平成 21 年 和神社での御旅所祭



平成 21 年 和田岬の町並みを御輿が神幸

◎ 福にまつわる

ことば

「口福」

大辞林(三省堂)には「おいしい物を食べて感じる満足感」と記されています。満ち足りた食事、自分の好きな美味しい物であれば尚更に幸福な気持ちになれるでしょう。また御馳走であっても、そうでなくても食べる時の雰囲気や顔ぶれで気持ちも味わいも大きく変わった経験は誰もがもちではないでしょうか。
 食べ物とは、あらゆる周囲からの賜り物(タバリモノ)とも言えます。生きていく上で不可欠な食事の時だからこそ、心を落ち着けて感謝の気持ちを持って、その瞬間から様々な福を授かる事が出来ると思います。



文化研究所だより (十三)

西宮神社と〈食〉

古今東西、神様と食べ物との関係はとても深く、人々は神様に豊作や大漁を願い、大きな実りに感謝する中で信仰心を育んできました。また自分達が普段口にする物を神前にお供えし、神様にも召し上がって頂くことで強い絆を感じ取ってきました。食べ物には神様と人々をつなぐ大切な役割を持つていたと言えるでしょう。そこで西宮神社の『御社用日記』から、様々な〈食〉にまつわる記事を抜き出してみました。

まず取り上げるのは神様の〈食〉、即ち「神饌」です。西宮神社で神事祭祀が催される際は、神前に御饌と酒が献上されます。但し神社が式日と定める「日」と十五日には、次の御膳が三方に載せて用意されました。

また大きな祭りや遷宮の時には次の三膳が献上されます。

- 一膳 蒸飯 蕪 鯛ひれ 旬の魚(尾頭付)
- 二膳 焼魚(小串) 昆布 大根 若布 塩
- 三膳 鮑 鯉節 鯛 鱒(又は鮭) 銀杏
- 鯛 旬の刺身 鴨 海老



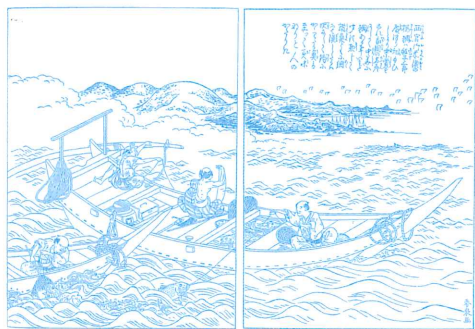
式日の御膳よりも豪華な品々が並んでいます。どの膳にも鯛が供えられている点に特徴が見られます。えべつさんといえ鯛を思い浮かべますが、西宮浜は古くから鯛の名産地で、なかでも産卵直前の「桜鯛」は特に美味しく、大坂でも珍重されたそうです。こうした地元の名物が供えられたのは当然と言えましょう。

一方、その日に限って献上される特別な神饌があります。例えば三月三日の「草餅」、五月五日の「粽餅」、六月一日の「氷餅」、十二月一日の「二股大根」などです。

氷餅とは冬の寒い内に凍らせて干しておいた餅で、農作業などで体力を消耗する時期に食べる保存食でした。西宮神社では現在も七月一日の旬祭に献上していますが、春の草餅や冬の大根など、折々の季節に合った品物を神様と市井の人々が一緒に食べることに意味があったのです。ちなみに広田神社では「五ツ貫団子」が正月三日に、南宮神社では蓮の葉に素麺を乗せた「点心」が七夕の日だけ献上されます。供えられた食べ物から神様も季節を感じていたかもしれません。

そして次に取り上げるのは人々の〈食〉です。『日記』には武士や町人など色々な身分の人達が登場し、神主らと様々な交流をしています。そんな人々を神主が自宅に招き、宴席を設けることがありました。どのような献立が提供されたのかが分かる記事は少ないのですが、安永四年(一七七五)正月五日に神主宅で催された宴席は、とても詳しい献立が『日記』に残っているので紹介します。

この日の招待客は、神社に縮緬の幕と毎年多額の御膳料を奉納すると申し出た、西宮町の干鯛屋仲間の中面々でした。神社側は参拝後の彼らを最上のおもてなしで迎え、非常に豪華な献立を用意したのです。



『摂津名所図会』西宮桜鯛漁 場面



- 御神酒 御肴 かずのこ
- 御菓子 干菓子二組 蜜柑二組
- 吸物(すまし) 鱒 うど
- 組合 玉子 鯉 牡蠣 くだい 芋
- 浜焼 鯛二尾
- 小付飯
- 吸物(みそ) 牡蠣 椎茸 大根
- 御飯
- 茶碗蒸 鴨 きくらげ 鮑 麩 くだい
- 焼物(つけ焼き) 鱒 かまぼこ
- 香物 瓜 大根
- 御神酒 御肴 牛蒡
- 刺身
- ひやし物 梨 大根 ざぼん

鯛の浜焼は西宮の名物料理だったので、うか『日記』にもよく登場しています。十日えびすで奉納される「御掛鯛」を調理したこともあるようで、えべつさんと同じ物を頂戴できる貴重な機会でもありました。

また注目したいのは材料の豊富さです。これは西宮の流通が発展し、多くの人や物が集まっていたことを示しています。つまり献立の多様性は都市力のバロメーターであり、食を通して江戸時代の西宮のあり方をうかがい知ることのできるのです。

さて西宮神社文化研究所では、九月に『江戸時代のえべつさん史話―西宮神社御社用日記を読む』(仮)を刊行予定です。西宮神社の神主らが書き継いだ日記から、江戸時代の神社や西宮町の様子、各地におけるえびす信仰のあり方などを読み解きます。一般の方々にも親しみやすい内容になっておりますので、二読頂くとうれしいです。

社頭より

【毎月十日はとおかしの日】
毎月十日に斎行される旬祭「十日参り」の参拜者には、おさがりとして「とおかし」をお配り致します。この機会にぜひ、西宮の銘菓をお楽しみ下さい。尚、お配りの「とおかし」は数に限りがありますのでご了承ください。



卯月〔4月〕
『えびす大福』



あおやま菓匠

皇月〔5月〕
『えべっさん・鯛』



千鳥屋宗家

水無月〔6月〕
『目出鯛みかさ』



高山堂

文月〔7月〕
『えびす餅・福たま』



翁菓舗

葉月〔8月〕
『えびす金鰯』



谷矢製館

長月〔9月〕
『めで鯛・宝船』



御菓子司
昇月堂

神無月〔10月〕
『宝箱』



こはく

霜月〔11月〕
『境内・鯛』



菓條栄久堂吉宗

師走〔12月〕
『ときわの宮』



君栄堂本舗

如月〔2月〕
『御神酒まんじゅう』



甘辛の関寿庵

弥生〔3月〕
『えびす舞』



成田家

えびすさまの月参り

当社ではえびすさまのご神徳をさらにお受け頂き、ますますご繁栄されますよう、御祈願が成就いたしますよう、特別に祈禱「えびすさまの月参り」を実施致します。

月参りのご祈禱を受けられますと、祈禱後境内「おかめ茶屋」で休憩できるお茶券を進呈致します。

「えびすさまの月参り」でお参りの方は祈禱殿の受付にお申し出ください。最初に「月参り参拝証」をお渡し致します。次回より月参り参拝の際、受付にご提示下さい。



招福 えびすさまの月参り
参拝証

西宮神社社務所

本証を受付にご祈禱料と

境内おかめ茶屋でご休憩
します

- 本証を紛失、破損された場合はただらにご連絡下さい
- 本証の使用は記名ご本人に限ります

えびす宮総本社 西宮神社
〒662-0974西宮市社家町1-17 Tel 0798-33-0321

発行 年 月 日

百太夫神徳宣揚講演会

当社境内に鎮まります百太夫神社は、かつて人形操りにてえびすさまのご神徳を広めた傀儡師の祖先をおまつりしています。その百太夫神社のご神徳の宣揚を図るべく三月二十(土)に第二回百太夫神社文化芸術講演会を開催しました。

「人・街・夢・花と夢の咲く町」と題して、講師にタレントの浜村淳さんをお招きしました。

浜村さんはパーソナリティーとしてご活躍の傍ら、タレントとして初めて国立大学(和歌山大学経済学部)の講師となられ、平成六年には追手門学院大学文学部の講師として教壇にお立ちになりました。



十三時三十分
十分に本殿にて浜村さんをはじめ
参加者で正式参拝を執

り行い、引き続き百太夫神社を参拝。十四時より講演会が始まりました。認知症に罹っていないか計算のテストをしたり、浜村さんの様々な経験や視点からのお話を頂きました。天気にも恵まれ、二六〇名と大勢の方が参加され楽しく、また意義深く聴講されました。



えびすさまのお膝元に
にしのみや町あるき
参拝の帰りに立ち寄りたい、
立ち寄って頂きたい場所



厳選した北海道小豆を創業昭和20年の製餡所ならではの技でふっくら炊きあげ、甘さ控えめの金鰐にしました。西宮名物として、西宮神社最大のお祭りである十日えびすのお土産としても大変喜ばれています。

谷矢製餡株式会社

住所 西宮市本町8番1号
電話 0798-22-4328 FAX 0798-34-6882
営業時間 8:00~17:00(月~金) 定休日/日曜
8:00~14:00(土・祝)



子ども相撲大会参加者募集

えびすさまの荒魂を祀る沖惠美酒神社。その例祭日(7月10日)に合わせ、直前の日曜日にあらえびすさまの力強さや躍動感を頂き、子供の成長を願う「子ども相撲大会」を奉納致します。幼稚園から小学生まで、男女問わず募集しておりますので、皆様のご参加お待ちしております。



- 【競技方法】年齢別に分かれてのトーナメント戦
- 【競技月日】令和元年七月七日
- 【応募資格】一般の部 幼稚園保育園児(男子・女子) 小学校〜六年生(男子・女子)
- 【応募方法】経験者の部 小学校〜六年生(男子) 社務所受付にて申込用紙を用意しております。六月二十三日〆切り

※写真はご会食プラン¥8,500(会席料理)



ご会食プラン ¥8,500 (会席料理) | 御膳料理 ¥6,000 | お子様料理 ¥3,500

こんどの七五三は しっかりオシャレして えびすさまに お参りしましょ♪



衣裳・お着付け・写真・お食事
大切な祝いの一日は西宮神社会館にすべておまかせ。

七五三パック 貸衣装・着付ヘアセット・着付前撮り・スナップ写真も写真(一式) 承ります。
¥35,000

七五三衣裳展示ご予約会
7月 6日(土)・7日(日) 9月28日(土)・29日(日)
8月24日(土)・25日(日) 10月20日(日)

会食・着付受付開始は7月6日(土)より

info@jinjyakaikan.com 西宮神社会館 ☎(0798)23-3311

●七五三祈祷料/1人 5,000円(兄弟姉妹の場合2人 8,000円 3人 10,000円) ※千歳飴などお下がりは9月以降そろいます。

編集室から

四月の末から五月にかけて御代替わりがあり、御社頭は御朱印を求めの方々や参拝者で大変にぎわいました。大晦日から新年を迎えたような感覚をお持ちになった話も、よくうかがいました。前回の御代替わりは昭和六十四年一月七日に昭和天皇の崩御で始まり、どこか悲しく慌ただしい印象があります。早くも三十年以上前の事となり、若い方々には今回が初めての経験です。この機会に代々の御代替わりや秋の大嘗祭をはじめとする祭祀、皇室や日本の歴史について、あらためて学んでみたいものです。

また当社では九月の海上渡御祭が再興二十年になる事も併せて奉祝の記念事業を種々に行っております(五頁参照)。是非この機会にお誘いあわせの上ご参加ご協力を頂ければ幸いです。

特設ホームページで
西宮神社の最新情報をご
覧ください。

西宮神社 公式サイト 検索
http://nishinomiya-ebisu.com



西宮神社
公式サイト
QRコード